

平成30年度第2回地域福祉計画推進協議会 議事要旨

<日 時>平成31年1月25日(金) 13時30分～15時00分

<場 所>和歌山市あいあいセンター福祉交流館3階会議室第3

1 開会

・社会福祉部長挨拶

今回は平成30年7月に協議会を開催し、各種アンケート調査や、地域の絆づくり交流会の実施方法等・内容についてご審議いただいた。それを受け、アンケート調査や福祉施設及びNPO団体等へのヒアリングを実施するとともに、11月から12月にかけて地域の絆づくり交流会を開催した。

その報告とともに、今後地域福祉計画をどう推進していくかについてもご審議いただきたい。

・会長（議長）挨拶

今回の協議会は、地域福祉計画の基礎資料になる調査を取りまとめたもの。地域福祉について施策を進めていくにあたり、根拠資料に基づくことが必要。委員の皆様方にご確認いただき、忌憚の無いご意見をいただきたい。

2 議事

(1) 各種アンケート調査結果について

<事務局>

・次の資料について事務局から説明

【資料1-1】第4次地域福祉計画に係るアンケート調査結果報告書

【資料1-2】平成30年度市政世論調査概要

<議長>

資料1-1の68、69ページ、小学生がボランティアをしたことがないのが半数以上。理由は「きっかけがない」あるいは「関心がないから」。ボランティアを含めた福祉教育について、市当局はどのように考えているか。

<委員>

小学生が、どこでどんなボランティアをしたらいいか知らない。知らせている

か。担い手を増やすというところで、行政はどのような対策を立てているか。

<委員>

ボランティア活動は授業の中で取り組んでいるのか。

<学校教育課>

学校教育の中では、現在、地域との連携は進んでいるかと思う。子どもたちが授業中にボランティア活動をした場合、どちらかという授業の一環として捉えていることはある。地域の清掃等の活動をしている。

<議長>

授業の一環としてやっているという「やらされ感」があるのと、年に1回の体験のようなものになると身に付かない。継続的に、(児童の)意識にどうやって入れていくかを踏まえた福祉計画をお願いしたい。

<議長>

資料1-1の5ページの先導的に取り組む事項については、ギャップが一番大きく出てきているのは、生活困窮者支援。

<生活支援課>

生活困窮者対策班を置き、相談支援員5名、就労支援員1名で、生活に困窮された方の相談を受け、自立に向けた支援をしている。平成29年度実績では、新規の相談が359件あった。

<議長>

利用者の方の満足度を見ると、どういう風に情報を伝えていくかというところが不足していると思う。

また学習支援事業等の任意事業も、できるだけ積極的に施策を進めていただきたい。

<委員>

(地域の)つながりをつくることで、貧困も防いでいけるのではないかと思う。

(2) 地域の絆づくり交流会の結果について

<事務局>

・次の資料について事務局から説明

【資料2】地域の絆づくり交流会の結果について

<議長>

地域の助け合いについてゲーム感覚で楽しむところが良かった。
地域の課題を探り出すような試みも1つは要ったのではないかと思う。

<委員>

参加人数にばらつきがある。
自分たちの地域について検討する時間帯を設けるべき。

<委員>

参加者が少ないのはもったいない。
(一緒に開催する)地域が全然違い、分割した方が地域の交流になったと思う。

<事務局>

PR方法、時間を含め、今後このような交流会を行う際は検討させていただく。

(3) 福祉施設及び福祉関連団体・NPO法人ヒアリング結果について

<事務局>

・次の資料について事務局から説明

【資料3】福祉施設及び福祉関連団体・NPO法人ヒアリング結果について

<議長>

社会福祉法が改正されて社会福祉法人の地域貢献という事が言われている。
連携していただけるようお願いしたい。

(4) 第4次和歌山市地域福祉計画について

<事務局>

・次の資料について事務局から説明

【資料4】第4次和歌山市地域福祉計画について

<議長>

第3次計画は、1次2次からだいぶ形を変え、分かりやすい形にした。まだ5年経っていないので、それを引き継がせていただきたい。

(5) その他

<委員>

健康年齢での長生きということで、皆さん、力を入れていると思う。高齢者の集いとなると、イベントが前年度踏襲になる風潮が強い。私はボランティア団体を立ち上げており、10年経つ。行事を年間に80件ぐらいやっており、個人の要望を踏まえるため、月1回の定例会では活発に議論している。

<委員>

地区社協の会長を筆頭に、地域の福祉、そしてつながりをこれから強めていきたいと思い、マニュアルも作った。それにのっとなって地域を活性化させていきたいと思うので、ご支援、ご協力をお願いしたい。

<委員>

絆づくり交流会に参加した時も、年配の方が熱心に来られていて、若い方が1人もいなかった。地域との関わりを、何にも思っていない方が沢山いらっしゃる。そういう根本的なところから、何とか変えていってほしい。

<委員>

絆づくり交流会の件ではもっと自治会として協力できることがあると思うので、次に回覧板等がきましたら、もうちょっと各自治会に呼び掛けて、参加をしていただくようにしたい。

<委員>

アンケート結果を分析し、出された意見については十分施策に反映していくことが重要であると思うので、行政の方、上手い舵取りをよろしくをお願いしたい。

<委員>

北欧では一般の大人に対し、奉仕活動をどれだけしているか、どんな方法で何月にどんな施設へ何をしに行ったかという記録を積み重ね、老人ホームの運営者を調査、決定する時に、それをバロメーターに選んでいる。

ボランティアカードというものを市でも作っていただきたらと思う。慰問に来てくれるような団体は、一定期間プールしておいて、表彰の対象にしてあげていただきたら、福祉に対する考え方が高まってくるのではかという気がする。

<委員>

民生委員はよその家と色々と情報を交換しないとできない仕事なので、家庭のことに寄り添って活動する。皆地域に入って、行政、保護課の人も色々やってくれるので、そのパイプ役にならなければと思って皆頑張っている。引き続き、

よろしくお願ひしたい。

<委員>

市婦連の各地域の会長達には、地域の人達と一緒に色々なことをすることを義務付けているので、皆さん一生懸命やっただいただいていると思う。

今回の資料は大変だったと思うが、それが全てではなく、市民の皆さんには色々な意見があると思うので、その点次の福祉計画に活かしてほしい。また報告ばかりでなく、それに対する対策もお願ひしたい。

<委員>

ボランティア連絡協議会では2千人近いボランティアが登録されていて、個々のグループが個々に活動しているが、子どもたちがボランティアということを知らないというのでびっくりした状況。講習会、研修会というのを子どもたち相手に開き、夫婦で子どもさん皆連れて参加するという方もいるが、市民の皆さんに伝わっていないんだなと思っている。皆さんと一緒にまた話し合っ、地域に根ざしたボランティアも育てていかなければいけないと思っている。

<委員>

母子寡婦福祉連合会では、若い人が入会しようにも、個人情報秘密で、誰を入会させるかという資料そのものが途絶えてしまっている。絆づくり交流会を全然知らなかったが、うちの会では、交流の場へ出向いて行かせてもらい、情報は本当に欲しい状態。今後どうぞよろしくお願ひします。

<委員>

利用者アンケートの結果の中で、「地域での住民同士のつながりの強化」を市民がもっと主体的に取り組んだ方がよいというのが59.2%、「困りごとを地域で支え合う活動の充実」も、市民が主体的にやった方がよいというのが42%いらっしゃる。皆さんはもう、地域に密着したことはもっと自分達がやらなければいけないと思ってくれている。後は地域がそれをもっと細かく、どうやってつなげていくかということで、実現できるんじゃないかという気がした。

また、資料として子どもの人口を出して欲しい。15歳以下人口が減っているにもかかわらず虐待の相談件数は増えていっている。子どもの数も出して、議論ができる地域福祉計画として欲しい。

<委員>

ボランティア活動を小学生の子どもがしたことがあるかという項目があり、その中に「きっかけがないから」やったことがないという話があっ、分かるような気もするが、家庭教育、地域社会の子どもに対する教育というのが壊れてる

んじゃないかなと思う。やはり地域のそういうつながりが切れているのが、今の社会は一番の問題であり、このへんが一番大事ではないかと思う。

<事務局>

今後のスケジュールを確認

3 閉会